

## 会長就任挨拶

全日本中学校長会会長 川 越 豊 彦



ただ今、全日本中学校長会第四代会長として、御承認いただきました尾久八幡中学校長の川越豊彦でございます。新役員を代表して一言、御挨拶申し上げます。

この時代の変わり目に、大役を仰せつかりましたことは、身に余る光栄なことでありますが、中学校教育を取り巻く山積する課題に対し、解決に向けた確かな方向性を示していくという本会と会長の責務を考えますと身の引き締まる思いがいたします。

一校長経験も浅く、微力ではございますが、全国九千余名の会員の皆様からの情報と知恵、勇気と力をお借りして、協力的な気持ちをもって、全国の中学校で学ぶ子供たちのため、会長としての責任を果たす覚悟でございます。どうぞ、よろしく願います。

この一年間、本会の充実・発展のために、御尽力いただいた山本聖志会長をはじめ、副会長、理事、そして幹事の皆様、本当にありがとうございます。心より御礼申し上げます。

さて、会長就任にあたり、判断の拠り所として、改めて本会会則を読み直しました。第二条に、本会の目的を次のように記

してあります。「本会は、全国各都道府県中学校長会相互の緊密な協調を保ち、中学校教育の振興を図り、国家社会の発展に寄与することを目的とする。」これを平たく言えば、「全国の校長先生方が、知恵を出し合い、協力して、中学校教育をよりよいものにして、未来社会の担い手である子供たちを育てていきましょう。」ということであろうと理解しております。

この目的を実現するために、全日本中学校長会として、これから取り組んでまいりたいと考えていることを三点述べさせていただきます。

第一点目は、令和三年度に全面实施となる新学習指導要領の円滑な実施に向けた取組です。

近年、情報化やグローバル化といった社会変化が急速に進んでいます。その変化は、今後更に加速し、子供たちは予測困難な時代を生きることになると言われていきます。

そのような時代にあっても、子供たちが予測できない変化に対し、主体的に向き合っていくために、自らの可能性を発揮して未来社会を創り出す力が身に付くようにと学習指導要領が改訂されました。この新学習指導要領に託された願いは、社会の願いでもあります。

この願いに応えるため、学校は、教科横断的な視点に立つて、社会に開かれた教育課程を編成・実施し、カリキュラム・マネジメントにより、学びの質の向上を図ることが求められています。また、全ての学習の基盤となる、言語能力や情報活用能力を併せて、現代的な諸課題に対応できる力の育成も求められています。これらのことを実現するため、各学校では、必要となる人的・物的資源などを効果的に組み合わせるなどして、創意工夫することが必要となってまいります。

しかし、学校の創意工夫だけでなく、子供たちに求められている力を身に付けさせることができるのでしょうか。日本中、どこに住んでいても、子供たちは、整ったICT環境を活用して、情報社会

に対応できる情報活用能力を身に付けることができるのでしょ  
か。どこに住んでいても、ALTなどを活用して、グローバル社  
会に対応できる英語力を身に付けることができるのでしょ  
うか。  
新学習指導要領の理念を実現し、社会の期待に応えるために  
は、教育諸条件の整備・充実が不可欠です。学校現場における  
創意工夫という内部努力を推進するとともに、教育諸条件の整  
備・充実について、全日中の組織力をもって働きかけてまい  
りたいと考えております。

第二点目は、「学校における働き方改革」の推進です。

今年一月、中央教育審議会において、「新しい時代の教育に  
向けた持続可能な学校指導・運営体制の構築のための学校にお  
ける働き方改革に関する総合的な方策について（答申）」が取  
りまとめられました。この答申を踏まえ、三十年二月の事務次  
官通知に加え、今年三月に、勤務時間管理の徹底、業務の明確  
化・適正化、組織運営体制の在り方などを内容とする事務次官  
通知が発出されました。この通知に基づき、「学校における働  
き方改革」の実現に向けて、各教育委員会において、一層、制  
度改正や制度設計が行われることと思えます。

しかし、「学校における働き方改革」の実現は、教員の意識  
改革に負うところが極めて大きいと考えます。行政組織は制度  
改正や制度設計はできますが、教員の意識を変えることはでき  
ません。それができるのは、日々、教員と向き合っている私た  
ち校長であります。先生たちが、時間的にも心理的にも余裕を  
もって、笑顔で教室に向かうことができるように、そして、そ  
の先にいる子供たちが笑顔で学校生活を送ることができるよう  
に、私たち校長が、教員の意識改革に取り組むことが必要です  
併せて、組織運営体制を改善するなどの内部努力を推進した上  
で、行政組織において更なる制度改正等が図られるよう、政策  
評価の根拠となり得るデータ等を「現場からの声」として、発  
信してまいりたいと考えております。

第三点目は、「全日中教育ビジョン」の策定です。

全日中教育ビジョンは、平成二十一年に公表され、これまで  
二度の改訂を経て今日に至っております。この間、全日中教育  
ビジョンは私たち校長が、学校からの教育改革を推進する際の  
指針として、大きな役割を果たしてきました。この役割を  
継承するとともに、一〇年後の社会を見据え、学校からの教育  
改革が一層推進されるよう、新たな「全日中教育ビジョン」の  
策定に取り組んでまいります。ビジョン策定にあたっては、「安  
全・安心」が一つのキーワードになるうかと考えております。  
平成は、東日本大震災をはじめ、多くの自然災害に見舞われた  
時代でした。その時の記憶と記録を教訓として、今後の防災・  
減災教育の充実を図り、子供たちの命を守ることが、震災の記  
憶の風化防止にもつながると考えています。また、いじめによ  
り子供自身が自らの命を絶つという悲しく、痛ましく、あつて  
はならない出来事が後を絶ちません。子供たちが安心して学校  
生活を送ることができるよう、いじめ防止についてもビジョ  
ンの中に位置付け、取り組んでいきたいと考えています。

さて、本会に関わるようになって、歴代会長をはじめとする  
諸先輩とお話しさせていただく機会が何度かございました。そ  
こで、伺ったのは、以下の点です。

○全日本中学校長会は、教育のプロである全国の校長先生方  
を会員として構成し、教育の世界では、非常に大きな影響力  
をもつ組織であること

○そして、政策提言できるだけの大きな影響力をもつのは、全  
日本中学校長会が実践もあり、理論もある実践的専門家集団  
であるからということ

これらの、歴代会長をはじめ、諸先輩が築かれ、継承されて  
きたことを受け継ぎ、全日本中学校長会会長として皆様ととも  
に歩んでいくことを、お誓い申し上げ、就任の挨拶とさせてい  
たきます。